第 2015-13 号

恵みと真理のニュース

2015 年 3 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

きれいで真実な信仰を持った娘の肝臓の移植を通して癒され、新しい人生を生きるように神様は私に恵みを与えてくださいました

イエスキリストを救い主で受け入れ驚くな救いの恵みを体験して主を信じ仕える喜びと幸せを享受させる神様の恵みに感謝します。私は神様を信じなくて世の欲望と楽しむことだけ求めながら生活を浪費しました。そして重い病気に患って長女と義妹から伝道され教会に行きました。主の恵みで病気が治され、主の中で完全に新しい人生を生きるようになりました。

イエス様を信じる前通っていた職場の健康診断で“b型肝炎”の症状が発見されました。精密検査で肝臓癌の診断を受けました。今まで健康を自慢した世の楽しむの中で生きた私には青天の霹靂な事でした。病院で何回塞栓施術を受けましたが治らなかったです。持続的に病気が進行になり転移され肝臓を移植に至るまでしなければならないと言われました。親戚の周りの中で血液型が同じで移植に適切な寄贈者を探しましたがいなかったです。あちこち探しても現れなかったです。

以前の不信者だったら落胆して絶望して人生を諦めたかもしれません。しかし、神様を探し仰ぎました。神様の助けと摂理を願いながら切に祈りました。

“ 求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。 あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。 魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。

（マタイの福音書 7：7～11）の御言葉をもって涙で祈りました。賛美しながら神様の恵みが望んだら治る信仰と希望を持っていました。

神様は私の祈りに答えてくださり、治療を受ける道を教えてくださいました。血液方が違っても肝臓の移植に成功した事例があることを知りその情報を子供達に伝えました。子供達がインターネットで移植手術をする病院と医師を探して会いました。そして今までの私の闘病の過程と現在の状態を説明して移植手術が可能できる希望的な話を聞きました。比較的に条件にあう健康な二番目の娘が移植するとしました。

いくら父と娘の関係でもやさしく決定ではありませんでした。娘に真のありがたくて、心がきれいで真実な信仰を下さった神様に感謝しました。全ての家族が集まって神様に礼拝を捧げました。礼拝を捧げる時に家族の皆が泣きました。落胆と絶望の涙ではなく希望と感謝の涙でした。 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ 41：10）御言葉を黙想して手術の全てを神様に委ね癒しの恵みを与えるように祈りました。そしても病院で入院して手術を決めた時間が来ると恐ろしかったです。心配になりました。しかし、教会で教役者と多くの聖徒が礼拝を捧げ私のため祈ると全てのことを主に委ね心が平安になりました。” わたしは彼の道を見た。わたしは彼をいやし、休ませ／慰めをもって彼を回復させよう。民のうちの嘆く人々のために わたしは唇の実りを創造し、与えよう。平和、平和、遠くにいる者にも近くにいる者にも。わたしは彼をいやす、と主は言われる。（イザヤ 57：18,19）という御言葉で慰められ勇気を得ました。12 時間以上の手術が続きました。神様の恵みの中で大きい手術か成功的でした。ハレルヤ！全ての家族が安心して一つの心で神様に感謝と賛美を捧げました。治療を受けて回復する中でも教会の牧師と伝導士、長老達、勧士たちが病院に訪ねて早く回復するように私と娘のため祈りました。祈ったとおり健康になり生活する時に不便なところがないようになりました。神様は考心がある娘にも赤茶を妊娠し出産する祝福を与えてくださいました。

私の家族に信仰を下さり神様を信じ仕え、豊かな救いの恵みの中で生きるように導いてくださる神様に感謝します。妻と子供に暖かい愛を下さり一つになって大変な苦労も勝つように導く神様、家庭の大事さを知ように導いた主に賛美します。神様が下さった新しい人生で熱心に礼拝し相変わらず主を愛し仕えます。

[信仰コラム]

あふれる恵みとすべての良いわざ

″ 神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである″(コリント人への第二の手紙, 9 9:8)

神様が造った自然界を観察すればその広大さと秩序と調和そして種類の多様さと豊かさに感嘆する事しかないです。 神様の恵みが充満します。 これのみならず神様がイエスキリストにあってくださる恵みも極めて豊富です。 本文の言葉を通じて彼の豊富な恵みが何でどのようにその恵みを受けることができるのかそしてその恵みを受けた者が何をしなければならななのかをよく見ます。

第一に、神様がすべての恵みをあなたがたにあふれるようにおっしゃるというお言葉をよく見ます。
神様がくださる恵みが何でその恵みの貴重さがどうなのかに対しては人の知識と知恵では分からなくて悟ることができないです。 聖霊が見させて悟らせてくださると分かるようになります。 神様の恵みを１０個に区分することができます。 第一、罪を赦してくださる恵みです。 第二、永生を得させてくださる恵みです。 第三、神様の子にならせてくださる恵みです。第四、神霊な知識を得させてくださる恵みです。 五番目、神霊な賜物を受けさせてくださる恵みです。六番目、神霊な実を結ばせてくださる恵みです。 七番目、時によって助ける恵みです。 八番目、天国を企業でくださる恵みです。 九番目、復活するようになさる恵みです。 十番目、賞と冕旒冠をくださる恵みです。 神様がこのように多様な恵みが私たちにあふれるようになさると言いました。

二番目で、神様がくださるこのような恵みを誰が受けるようになるのか調べます。
神様の恵みを受けようとすれば悔い改めてイエスキリストを迎接しなければなりません。 自分が神様を逆って遠く離れた罪人であるのを自ら認めなければなりません。 イエスキリストが罪人を救うしようと世の中へいらっしゃったし十字架に釘付けられて死なれて復活したことを信じてイエスキリストを自分の救世主に迎接しなければなりません。 このようにするのが救いに至る悔い改めです。 また神様の恵みを受けようとすれば切に望まなければなりません。 イエス様が公生涯の間にカボナウムで伝道の本部を置いてその所で多くの奇事と異蹟を行なった理由が人々が集まって来たからです。 また神様の恵みを受けようとすれば信じて従順しなければなりません。 生まれの時から盲人である人にイエスキリストが地に唾を吐いて泥をつぶして彼の目に塗った後 ″シロアムの池へ行って洗いなさい″としました。 彼がイエス様のお話に順従して行うと直ちに目が明るくなりました。 “神様がすべての恵みを ‘あなたがたに’ あふれるようになさるから”とおっしゃったお話で ‘あなたがた’ とはこのように悔い改める者、切に望む者 、信じて従順する者を示しています。

三番目で、神はあなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。 というお言葉をよく見ます。

このお言葉は神様がくださる恵みを受けた者がすべきことを指摘しています “すべての良いわざ”と言うのは何ですか? 弱い者と苦痛される者を助けるのです私たちがイエスキリストを信じる信仰の中で行ったすべての 良いわざがイエスキリストに行った事で見なされます（マタイによる福音書 25:34～40） また神霊な知識と賜物を分けてくださるるのが良いわざです。そして良いわざと言うのはなによりも福音を伝えるのです。 滅亡の道に行く人に命の道に帰って来るように、地獄から天国へ進むように、サタンの権勢から神様の位に帰って来るよりもっと良いわざはないです このために物質を差し上げて時間を差し上げながら苦労して祈るのが必要です

人において一番悪い無知は神様の恵みが分からない無知です。 一番可哀想な人は神様の恵みが分からない人です。 神様の恵みが分かってその恵みをあふれるように受ける人は真実で福ある幸せな人です。 そしてその恵みとして良いわざをあふれるように行う生活は真実で恵まれた生活です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

我は聖霊を信ず (3)

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は聖霊バプテスマに関してよく見ます。聖霊バプテスマを正確に理解しようとすれば先に聖霊バプテスマに関わる用語が使われた多くの場合をよく見なければなりません。

第一、“聖霊でバプテスマを与える” “聖霊でバプテスマを受ける”と表現した場合です。バプテスマヨハネは “わたしは悔改めのために、水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない。このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。”(マタイによる福音書 3:11)と言いました。 使徒パウロは “なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。”(コリント人への第一の手紙 12:13)で言いました。

第二、“聖霊を受ける”と表現した場合です。復活したイエス様が弟子に現われて、“彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。”(ヨハネによる福音書 20:22) しました。

第三、“聖霊が臨む” あるいは “聖霊が下る”と表現した場合です。
イエスキリストがおっしゃるのを “ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。”(使徒行伝 1:8)と言いました。“それは、彼らはただ主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだだれにも下っていなかったからである。”(使徒行伝 8:16) しました。

第四、“聖霊を注いでくださる” あるいは“ペテロがこれらの言葉をまだ語り終えないうちに、それを聞いていたみんなの人たちに、聖霊がくだった。割礼を受けている信者で、ペテロについてきた人たちは、異邦人たちにも聖霊の賜物が注がれたのを見て、驚いた。”(使徒行伝 10:44,45)と言いました。 使徒パウロは聖徒の救いと係わって “神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に御霊を賜わったのである。”(コリント人への第二の手紙 1:22)と言いました。

五番目、“聖霊に満たされ”と表現した場合です。
“聖霊に満たされ”は聖霊バプテスマと関わって聖書で一番多く使われた表現です。 五旬節に 120 人の弟子が “一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。”と使徒行伝 2 章 4 節に記録されています。 ペテロは大祭司長と長老の前で “聖霊に満たされ”(使徒行伝 4:8) 福音を弁証しました。 その後に “彼らが祈り終えると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。 (使徒行伝 4:31) パウロがアンデーオック教会で宣教師で派遣を受けて船に乗って‘キプロス’に行った時でした。 ‘サラミ’で総督に福音を伝えているのにユダヤ人の魔術師が妨げました。 するとパウロが “聖霊が充満して” 彼を注目した後(使徒行伝 13:9) “見なさい、もう神様の手が君の上にあるから、君が盲人になっていくら間に太陽を見ることができないだろう。” と叱りました。 すると直ちに霧のようのが彼を覆って彼が周辺を手探りしながら導く人を探しました。 総督がその起こった仕事をして信じました。
聖霊バプテスマに関したこんな多様な表現を綿密に比較検討して見れば、大きく二つで区分することができるという結論に到達します。
“新しく生まれかわりあるいは救い”と関わる聖霊バプテスマがあって、“福音の宣べ伝え”と関わる聖霊バプテスマがあります。 教役者と聖徒はこの二つの中どの一つだけ選ぶのではないということをはっきりと認識しなければなりません。 この二つがすべて必要であるからです。 “新しく生まれかわり”と関わる聖霊バプテスマを受けなければならないし、“福音の宣べ伝え”に関わる聖霊バプテスマも受けなければなりません。

第一、新しく生まれかわることと関わる聖霊バプテスマをよく見ます。

“新しく生まれかわり”を漢字語で “衆生”と申します。 新しく生まれがどんな現象を言うことですか? これを理解するのに役に立つ事件がヨハネ福音 3 章にあります。 ニゴデモという人が夜中にイエス様のもとに来て神様の国に入る道に関して質問しました。 イエス様はニゴデモに神様の国に入る道に関してきちんきちんと説明しました。 先に 新しく生まれかわらなければならないと言いました。 その次には、 新しく生まれかわることは聖霊でよることで肉身ではなく霊魂に起きる変化だとおっしゃいました。 その次には、聖霊が人を新しく生まれかわるようになさる仕事はまるで風が我の目に見えないが実在して風が吹く事の結果は見られることのようであると言いました。 その次には、 モーセが荒野でへびを上げた時に眺めれば暮すという神様のお話をそのまま信じて眺めることで生きた人々のようにイエスキリストを信じるだけで永生を得ると言いました。
そしてイエス様は結論付けました。 “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである”(ヨハネによる福音書 3:16).
イエス様を信じれば罪の赦しを受けて聖霊による新しい生命すなわち永生を得て神様の子になります。 ヨハネ福音 1 章 12 節 13 節に記録されるのを “彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。” 言いました。 新しく生まれかわりは聖霊によるという事実をイエスキリストがニゴデモにこのように明らかにおっしゃいました。 コリント人への第一の手紙 12 章には “そこで、あなたがたに言っておくが、神の霊によって語る者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。”(コリント人への第一の手紙 12:3) しました。 そして 13 節には “なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。”(コリント人への第一の手紙 12:13) しました。 イエス様を信じる人は人種と身分の差にかかわらず皆一聖霊でバプテスマを受けてイエスキリストに属した枝体になったと言いました。 したがって聖霊によらなくては誰も新しく生まれかわることができないという結論に至るようになります。 イエス様を神様で信じて迎接した人々はみんな “神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない 。(ローマ人への手紙 8:9) これがちょうど “新しく生まれかわり”と関わる聖霊バプテスマです。

第二、福音の宣べ伝えと関わる聖霊バプテスマをよく見ます。

ある人々は新しく生まれかわる時に聖霊バプテスマを受けたら また聖霊バプテスマを受ける必要がどこにあるのか “必要ない。” と言います。 ところで聖書は “必要である。” とおっしゃいます。 これに対する聖書の証拠をよく見ましょう。
イエス様は弟子に言いつけるのを聖霊でバプテスマを受けて、上から能力を着る時までエルサレムを発たずに待ちなさいと言いました (ヌック 24:49、使徒行伝 1:4-8) “福音の宣べ伝え”と関わる聖霊バプテスマは “新しく生まれかわり”と関わる聖霊バプテスマとは別個の体験です。 福音書には弟子が “福音の宣べ伝え”と関わる聖霊バプテスマを受ける前にもう生まれかわったという証拠があります。 最後の晩餐席でイエス様が弟子の足を洗わせる中にペテロにおっしゃるのを “イエスは彼に言われた、「すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなのだから。あなたがたはきれいなのだ。しかし、みんながそうなのではない」。”(ヨハネによる福音書 13:10) しました カリオデユダを念頭に置いておっしゃったお話です。 そしてイエス様は弟子に “あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。”(ヨハネによる福音書 15:3)とおっしゃいました。 弟子がもう罪の赦しを受けて義のあるようになったし、新しく生まれかわった身分であることを意味します。 イエス様は弟子に言いつけるのを “見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。”(ルカによる福音書 24:49) したし “そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。”(使徒行伝 1:4,5) しました。
そうするので “福音の宣べ伝え”と関わる聖霊バプテスマは“新しく生まれかわり”と関わる聖霊バプテスマを受けた信者にお許しした別個の聖霊バプテスマというのが明らかです。
神様が聖徒に “福音の宣べ伝え”に関わる聖霊バプテスマをくださるには明らかな目的があります。 それは聖徒が権能を受けて地のはてまで福音を伝えるようにするためなのです。
“ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。”(使徒行伝 1:8)でイエスキリストがおっしゃいました。 イエス様の弟子の行動と生活をよく見れば、聖霊バプテスマでよる権能を受ける前と受けた後には大きい差があります。 初代教会の聖徒が “そして、毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした。”(使徒行伝 5:42) 理由がまさに “福音の宣べ伝え”と関わる聖霊バプテスマを受けたからです。

“新しく生まれかわる人のための聖霊バプテスマ”と “福音の宣べ伝えのための聖霊バプテスマ” こんなに二つの種類の聖霊バプテスマがあるという事実を認識してこれを教えるのが聖書に一致して適当です。 “新しく生まれかわらせる聖霊バプテスマ”を受けた聖徒の皆さんは “権能を受けて福音を伝える聖霊バプテスマ”を受けて滅亡の道に行く人々を永生の道に導くための熱情と権能で充満するように願いします。